

# 東都医療大学図書館通信(深谷キャンパス)

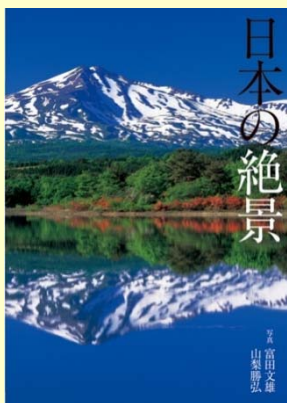
## 試験や実習が終わったら、ひと息ついてみませんか？

ちょっと時間ができたら、自分にご褒美をあげてみませんか？

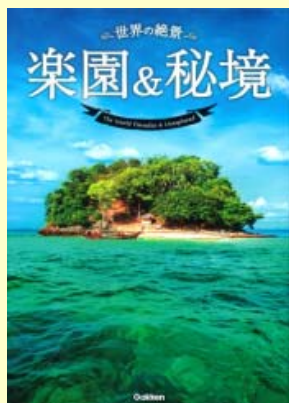
旅行に行く、スイーツを食べる、映画を観る、読書をする、思いっきり寝る、など自分のやりたいことを思いっきり楽しみましょう！



**旅行先はここ！ 行きたくなること間違いなし！**



日本の絶景  
(富田文雄、山梨県観光写真/PIE International刊)



世界の絶景 楽園&秘境  
(学研パブリッシング編集部・編/学研プラス刊)



**美味しいものを食べたいと思ったら...**



デザートの発想と組み立て  
(田中真理・著/誠文堂新光社刊)



カレーが食べたくなったら  
(坂田阿希子・著/文化出版局刊)



**ゆっくり睡眠、さっぱりリフレッシュ！**



スタンフォード式最高の睡眠  
(西野精治・著/サンマーク出版刊)



アイアンガー|ヨガ 基本と実践  
(BKS.アイアンガー・著/ガイアブックス刊)



**のんびり読書、じっくり映画鑑賞！**



マスカレードホテル  
(東野圭吾・著/集英社刊)



ファーストラヴ  
(島本理生・著/文藝春秋刊)



**試験後もやっぱり勉強！？ 楽しく学べる本もたくさんあります！**



まんが 医学の歴史  
(炭木保・著/医学書院刊)



マンガでわかる栄養学  
(足立香代子・監/池田書店刊)

ヒューマンケア学部4年生の皆さん。  
いつも図書館で勉強している姿をみています。  
国家試験が目前に迫り、緊張していらっしゃる方も多いことでしょう。  
これまで培った知識を盤石にし、万全の体調で試験に臨まれますことを  
心よりお祈り致しております。

1. 遅刻をしないように、時間に余裕をもって試験会場に行きましょう。
2. 試験当日、受験票を忘れずに！
3. 受験番号や名前の書き忘れに注意！
4. 体調管理を心がけましょう。
5. 自分を信じて！リラックスして受験しましょう！





幻冬舎新書『家族という病』(下重暁子・著 / 幻冬舎・刊)

## 下重暁子著『家族という病』の薦め

精神看護学領域 助教 平山裕子

この本を手にとった時、家族という病があるのかと変に納得してしまった。さらに、家族という言葉が自分を中心にすると、どこまでを家族というのか、という疑問も湧いてきた。日常生活の中で、家族という言葉に縛られていることは多いのではないだろうか。縛られていることは、周囲の人に言われて家族のためにする用事、家族の食事を用意して一緒に食べる、一緒に旅行に行くなどがある。通常のことではあるが、よく考え

てみると、なぜ家族のことをする、家族と一緒にするのだろうか。

著者は、家族が苦手であり、家族とは何かという疑問もっていた。家族を考える中で、家族のことを良く知らないことに気づいた。私自身も家族のことを良く知っているかと考えると、良く知っているとは言い難い。家族ことを改めて知ろうとしないし、理解しようとは思えない。一番身近にいる人は、見たくなくとも見える部分が多く、見ないようにしている部分もある。日常生活では気づくことは少なく、ふとした瞬間や一緒に過ごす時間があると、こんなことを家族は考えているのかと気づく程度である。

また、近くにいない人も家族と呼ばれ、冠婚葬祭のようなことがあると急に近い存在に変わる。著者も、家族は近くて遠い存在と述べており、家族のことを一番理解していないということであった。看護の仕事をする時は、相手を理解しようと努力するが、家族のことは理解しようと努力しない。人との距離感が左右するのではないかと考えると、家族との距離は近すぎて、理解しようと思えない。私自身も家族という言葉に縛られ、家族と適度の距離感が保てないかもしれないと感じた。

この本を読み終えて、家族の意味を考えると、家族の病の中にいるかもしれない。年を追うごとに、家族と言われる人は増えているし、血の繋がりが家族でないと思える人たちも増えている。家族に縛られていると思うより、家族との繋がりを丁寧に考える機会となった。家族という病の中で、血の繋がりがだけではない家族として、良い意味で広くとらえることができた。著者も自分を知るために、家族を理解しようと試みており、より良い生活に繋げて考えていた。時には家族を知り、理解することで、家族に縛られていると思うか、家族との繋がりとと思うのかなど、自分自身を知ることも含めて考え、本を読むのも良いのではないだろうか。

### 特別展「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」

東寺は794年の平安京遷都に伴い、西寺とともに桓武天皇によって建立されました。東寺と西寺は王城鎮護の官寺として創建されたと伝えられ、教王護国寺とも呼ばれます。東寺が823年に嵯峨天皇から弘法大師空海に下賜され、真言密教の拠点として栄えたのに対し、西寺は官寺として続いたものの度重なる火災等により衰退し、現在は石碑と建物の礎石が残るのみとなっています。今回の特別展では、空海にまつわる数々の名宝をはじめ、東寺に伝わる文化財の全貌が紹介されます。31歳で唐に渡り、約2年の滞在で密教のすべてを修めた空海は、その教えとともに多くの絵画や工芸品を日本に持ち帰りました。まず仏の世界を視覚的に表した曼荼羅は、複雑な世界観をもつ密教の布教活動において大いに役立ったといわれています。東寺は「曼荼羅のお寺」といわれるほど多くの曼荼羅を所蔵しており、今展では現存最古の彩色両界曼荼羅図である国宝「両界曼荼羅図(西院曼荼羅〔伝真言院曼荼羅〕)」《展示期間：4/23～5/6》をはじめ数々の曼荼羅が公開されます。また、空海が構成した立体曼荼羅の仏像においては、東寺講堂21体のうち史上最多の15体が出品され、見応え満点です。さらに、真言宗の重要儀式である「後七日御修法(ごしちにちみしほ)」については、空海が唐から持ち帰った国宝「密教法具」などととも堂内の様子を再現し、密教の世界をより深く感じられる空間を演出しています。

2023年には真言宗が立教開宗されて1200年目を迎えます。長きにわたり守り伝えてこられた至宝の数々をぜひご堪能ください。

会場：東京国立博物館 [平成館] (上野公園) 〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9 会期：2019年3月26日(火)～6月2日(日) 開館時間：9:30～17:00 ※入館は閉館の30分前まで ※但し、会期中の金曜・土曜は21:00まで開館 休館日：月曜日、5月7日(火) ※但し、4月1日(月) [東寺展会場のみ開館]・29日(月・祝)、5月6日(月・休)は開館。観覧料金(当日)：一般 1,600円 / 大学生 1,200円 / 高校生 900円 ※中学生以下無料。※障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に障がい者手帳などをご提示ください。 展覧会公式サイト：<https://toji2019.jp/> お問合せ：03-5777-8600(ハローダイヤル)



(上) 仏像曼荼羅イメージ 東寺蔵

《深谷限定》看護・栄養・医療系図書が10%OFFで購入できます!

#### 展示販売のお知らせ

展示販売 納品

1～3月は展示販売を休止しています。4月中旬～下旬頃に再開予定です。

\* 展示販売休止中も、図書の購入は可能です。廣川書店へ直接ご注文ください。

< 廣川書店・連絡先 >

TEL:027-322-4804

Mail: [takasaki@hirokaawa-books.co.jp](mailto:takasaki@hirokaawa-books.co.jp)

※注文の際は、必ず、大学名、学生番号、氏名を伝えて下さい。

#### ひと足早い春の訪れ

寒暖の差が激しい陽気ですが、確実に春は近づいています。

